

環境委員会

ヒアリングレポートvol.2 富士フイルムイメージングシステムズ

環境委員会(富田栄次委員長)が2016年の環境に関するアンケート行った結果から、環境問題に積極的に取り組んでいる会社にヒアリングを行い、会員社の企業規模に関わらず、取り組めるようなヒントを紹介することで、さらなる啓蒙活動を行っていく。2回目は富士フイルムイメージングシステムズ株式会社を紹介します。

◆ JAFRA環境委員会 会員社ヒアリング

日時： 2019年10月8日（火）14:00～15:00
場所： 富士フイルム イメージングシステムズ 会議室
取材先： 富士フイルム イメージングシステムズ株式会社
経営企画部総務人事部総務グループシニアマネージャー 久保木隆
イメージテック事業部 ディスプレイ営業部第1グループ担当課長 中西正人
富士フイルム イメージングプロテック株式会社
イメージング生産部技術スタッフグループ 山田英治
参加者： 環境委員会副委員長 田中幸夫(大阪オリコミ)、事務局 加藤潔、西井一雅(JAFRA)

敬称略

今日のご協力ありがとうございます。以前実施した、JAFRA環境委員会のアンケートにお答えいただいた回答で、環境施策に色々取り組まれているということでしたので、他会員社の何か参考になればと今回のヒアリングをお願いいたしました。
さっそくですが、御社はどのような体制で環境施策に取り組まれていますか？



西井



久保木

私ども富士フイルム イメージングシステムズは富士フイルムの国内販社ですが、当社だけが単独の方針を定めているのではなく、富士フイルムグループ会社全体として環境に取り組んでいます。ホームページに「[富士フイルムグリーン・ポリシー](#)」として富士フイルムグループ全体、こういう方針で環境に取り組んでいきますと明示しています。“持続可能な発展”は21世紀の地球、人類、企業にとって最重要課題ですと掲載しています。「富士フイルムグリーン・ポリシー」は2002年に制定され、毎年更新されていますので、2019年4月に最新のもの更新されています。4月にグループ会社がすべて集まり、行動指針や、今年度はこういう取り組みをするということが発表され、その方針に従って、課題が出てきます。

- 1.気候変動への対応
 - 2.資源循環の促進
 - 3.エネルギー問題への対応
 - 4.製品・化学物質の安全確保
 - 5.サプライチェーン全体に亘るC S R基盤の強化
 - 6.環境・安全リスクマネジメントの徹底
 - 7.情報開示・情報提供、コミュニケーションの向上
 - 8.従業員教育
- という8つの課題を掲げています。

この課題は製造から販社まで、すべてのグループ会社に適用されます。私ども販売会社は、製造はしていませんので、3番目のエネルギーに対する課題はありません。2番目の資源循環のように、資源循環になる紙や廃棄物といった、関係のあることについては重点的にやっていきます。当社の製造を担当している富士フイルム イメージングプロテックという子会社も富士フイルムグループとしてこの方針に従っています。もともとは、同じ会社でしたが、営業部門をイメージングシステムズ、製造部門をイメージングプロテックと分社したものです。



山田

設備と材料はイメージングシステムズが持っていて、プロテックがそこに人を入れて製造管理をしているということです。廃棄物もイメージングシステムズのものとして廃棄されます。

2002年にグリーンポリシーを制定され、ISO14001を取得されていますので、かなり以前よりこういった取り組みを始められているということですが、環境施策に取り組み始めた時期についてお聞かせください。



西井



久保木

環境施策ですが、ISO14001は2003年1月に初めて認証を取りました。最初は紙、ゴミ、電気の削減ということからスタートし、現在では、品質と環境でも認証を取り、総合マネジメントシステムということで運用しています。

単純に、紙、ゴミ、電気を削減することだけではなく、マネジメントも含め会社全体で取り組まれるようになったということですか。



西井



久保木

全体的な業務改善も含めてです。

認証を取られる2003年以前から環境施策に取り組まれていたということでしょうか、具体的にお聞かせください。



西井



久保木

まず環境からスタートしましたが、富士フイルムグループ全体が取り組む問題としたことでグループ会社もやり始めましたので、さかのぼると、90年代になります。総合マネジメントシステムとして各事業部を細かく分けセクションごとに活動組織を作っています。そこで日常の業務の課題、環境、法律などについて取り組んでいます。

この活動組織の中で業務改善を図っており、環境だけではなく、今年度の課題の中から日々の業務改善目標を設定して、それを1年間通して解決していくというやり方をしています。環境ということでは、電力量、廃棄物をなるべく減らす、産業廃棄物に関しては適切に廃棄することについて気を付けています。

廃棄物に関しては、五反田と調布にある工場で、取引先を調査して適切な産業廃棄物処理業者（以下：産廃業者）に依頼しています。どこでもいいから安いところへというわけではありません。回収から中間処理、廃棄まで確実にできる場所を選んでいます。

産廃業者が決められた通り処分できているかどうかに関しては、グループ全体で共通で3年に1回、環境の担当が現地を訪問し、調査票の項目に従って適切であるかどうかをチェックしています。



山田

その取引先の監査にもレベルがあり、評価の点数に応じて、優良なところは3年に1回、優良までもう少しというところは2年に1回、ギリギリなところは毎年監査をしています。その監査もグループ内で資格を持った人が監査するという形で富士フイルムグループとして全体を見ているので、当社独自というよりも全体で見ているということが大きな意味があるのだと思います。



久保木

ただ、モノを捨てるのではなく、なるべく有価になるようなものに関しては再利用できるような材料を選び、単に廃棄物とならないように気を付けています。



山田

これもグループ会社で最適な取引先を見つけて調査している部署がありますので、そこと連携しています。単独で探したりするのはとても大変ですので、グループ全体で統括している部門があることが富士フイルムグループ会社の強みかもしれません。

統括する部門があれば、任せておけば安心ですね。



西井



久保木

廃棄物が適切に廃棄されず、適当に捨てられてしまったら困りますので。私どもの会社で何か事故が起きますと、全部富士フイルム本体までいってしまうので、そういったことがないようにグループ会社全体で監視しています。あとは、年間を通して環境に対してどういった取り組みをしているのかということ、富士フイルムが環境関係、労働関係全部含めてグループ会社の数値を全部集め公開しています。

環境報告書ですね。



加藤



山田

ホームページからダウンロードできるようになっています。

それは各社個々の数字が掲載されているのですか



田中



久保木

これは社単独ではなく、グループ全体として出しているものです。我々が単独で発表するようなことはありませんので、製造から販売までという富士フイルムグループ全体を集約したものとして公開しています。

JAFRAの会員社でも鉄道会社は環境報告書を作成していますが、広告代理店はそこまでは作成していないというアンケート結果も出ています。



西井

そこまで規模の大きな会社がないということもあります。この環境に対するヒアリングの第1回目はジェイアール東日本企画にお願いしました。鉄道会社JR東日本のグループ会社ということで、JR東日本も当然大きな取り組みをされていますが、ジェイアール東日本企画も大きな組織なので、環境に対してかなり専門的なことにも取り組まれています。当社(大阪オリコミ)のような中小の広告会社ですと、そこまでの取り組みは当然できませんので、その中から何を学べるかということをこういう場でお聞きしてということになります。



田中



山田

グループ全体では製品、化学物質管理というのも把握していて、年1回グループ全体の各社で使っている化学物質の調査があります。この物質が規制になりますと富士フイルム本体から各社へ発信されますが、連絡を受けたら、即時に自社で検索して、規制された物質を使っていたら変えるということが全て管理できています。

広告関係ですと、広告関係で使っているインクや材料を全部現場に取り寄せていますし、化学物質単位で一覧表を作っています。何かが引っ掛かりそうになったら、どこかで使っていないかというチェックをして、代替を探すとか先に手を打つことができることが一つの長所です。広告関係ですと、大阪とかはコルトンフィルムは接着剤でつなぐのですが、はみ出たところをふき取るのは有機溶剤を使っています。

今まではアセトンを使っていたのですが、アセトンは規制される物質なので、ここ五反田や調布の工場で、アセトンの代替品はないかと探してテストして切り替えるといったことをしています。工場内の健康管理や、納品するものに含まれていないかをチェックして担保した上で出荷しています。

世の中で問題になっていたPCBも当然管理する中に含まれるのですけれど、当社は去年色々溜まっていたものも全て全廃することができました。社内のトレーディングシステムで呼び出せるPCBはゼロになりました。産廃業者と連絡を取り合い計画立てで行っています。



久保木

蛍光灯の安定器だとか、工場だと変圧器などもありましたので、ずっと保管をしまして、処理の順番待ちが長かったです。

処理する方法が確立できていなくて、できるようになったのは随分最近のことですから。



加藤

非常に細かいところまで組織立って取り組まれていることが分かりました。社内では環境に関する教育、研修それから社員の意識向上に関する具体的な施策はどのようにされていますか。



西井



山田

グループ全体で環境に関するe-ラーニングといったものを行っています。



久保木

基本的には年に数回、認証を取っている環境と品質、情報セキュリティなども含めてグループ全体でe-ラーニングを行っています。

講座の内容とか、テキストはグループ全体で作られたものを使用されているということですね。皆さんお忙しいので、e-ラーニングということになると思いますが。



西井



久保木

独自で作るのは大変だと思いますし、全体を一堂に集めることができません。数年前はグループ単位で、同じ教材を使用して研修をしていましたが、それもなかなか大変なことで、今は一人1台パソコンがありますので、e-ラーニングで対応しています。環境、情報セキュリティ、法律、個人情報などです。



山田

パソコンは個人が購入するものではなく、グループで全部購入していますので、基本的な設定は、スクリーンセーバーの動作にいたるまで全て同じデフォルトで設定された上で個人に配布しています。一人一人があまり意識せず、通常通り作業していると環境に関することなどある程度の基礎はできるということです。これが弊社の強みだと思います。

e-ラーニングのテストも付属であると思いますが、テストを受けて理解してもらうということでしょうか。



西井



久保木

理解度チェックのようなテストです。それからアンケートを必ず行っています。



山田

燃料会社、生産会社、その両方と事業所ごとに違いもありますので、事業所ごとに対応しています。営業所は、ゴミの分別にしても分別ボックスやリサイクル棚を使っているところが多いです。ある工場では、パートの方が分別をしています。分別一覧表に沿って分別して、その後チェックしてそのまま廃棄に出せるような流れを作っています。事業所によって廃棄物の内容も違ってきますので、場所に適した一覧表を作って拠点にあったものを作っています。

全体で取組まれながら具体的に拠点単位で対応されて、実際に運用しているということですね。



西井



山田

従業員は、特に意識をするわけではなく、表を見ればできるということです。環境についてこうしなければいけないと特に意識をさせず、マネージメントシステムで行っています。



久保木

環境を担当する部門がグループ全体を引っ張っています。当社が単体でやろうと思っても専門職を置くということではできないのですが、親会社には専門家がいて、全部仕切ってくれますので、そこが環境問題にグループ会社全体で取り組んでいます。

グループ全体で取組まれているということですが、御社独自でなにかされているものはありますか。



西井



久保木

営業部門だけですので、環境に関してはゴミに気を付けたいと思っています。工場のほうでは、水とか廃液とかに気を付けています。



山田

エネルギーの面でいいましてこのビルが今年度省電力エネルギー化がちょうど始まっているところです。



久保木

先週の土日(10月5日・6日)から工事を始めて、今週の三連休、来週の連休で全館蛍光灯をLED化します。蛍光灯をなくすことで、水銀部分をなくすこと、それから蛍光灯からLEDに変えることで、電力量を半分以下の省電力にする取り組みをしています。



山田

LEDにも2種類のタイプがあり、「色評価」に関わる場所には、色評価用のLEDを使い、事務用は通常のものを使い分けています。

評価用LEDというのはなんですか？



加藤



中西

印刷物を見ると蛍光灯の下で色が違って見えたりします。色味に関しては、色温度によって青かったり赤かったりしますが、それとは別に「演色性」という、演色性95の光で見る赤いリングはとてもおいしそうに見えるが、演色性80のものでは、少し黒く見えたりと、そのくらい演色性に差があります。



山田

安いLEDを使うと色がきれいに見えず、クライアントから写真の作りが悪いのではないかなというようなクレームがあったりしますが、光源が悪いのです。

試験的に管轄する部署にLEDを入れるのですか



加藤



久保木

事務所も工場も含め五反田のビルは全て高演色性のLEDに変えます。



山田

社内でレイアウトが変わり、別のフロアへ行ったら、違う色になってはいけないので、統一しました。



中西

もともと印刷関係の会社などは色評価用の蛍光灯を使っているので、印刷会社A社、B社どこでも基本的な環境が同じです。ただ、広告会社やデザイン制作会社は建物のデザイン性や、暖色系の灯りを使用したり、内装の美しさを追及されて、光の演色性や色味は特に意識されないで、そこへ原稿を持って行くと、色が違って見えるということがあります。



山田

このビルの一部屋には多数の蛍光灯を取り揃えて、色を変えて見える評価をする部屋を持っています。最終的にそこで校正をして、お客様のところへ持って行きます。

高演色性ということは当然LEDの単価は高くなるということですね。そのコストをかけてでも環境を整えるということは必須だったわけですか。



西井



久保木

LEDに変えると、初期投資は高いですが省エネにもなります。

多くの会社がLEDに変更していますが、高演色性のLEDにするところはあまりないですね。



西井



久保木

使ってないと思います。出回っている高演色性のLEDも少ないです。少ないので、選定する段階でも何メーカーから取り寄せて、どれが一番適当なのかということ进行测试して決めました。消費電力の削減にもなりますし、蛍光灯の交換も少なくなりますから、環境にはいいと思います。廃棄する蛍光灯にも水銀が含まれていますので、きちんと分別されないといけません。

できれば、デザイン制作会社も同じLEDを使ってほしいですね。



西井



久保木

ここで見た色と持って行ってみたら違うとなると困ってしまいますので、色に関しては気を使っています。

参考になります。他の会員社の皆さまへのアドバイスということで。



西井

環境問題は身近なところからやっていかないとだめですね。分別も意識を持ってやっていきたいと思っています。ただ、自分の会社が100%できているかと言われると、それはまだまだで、個人によっても差があります。それは日々の環境への意識を高めて、大きく言えば地球環境を良くしていきたいという意識を持って取り組んでいきたいと思います。身近なところからコツコツとですね。そうしないと大きなところまでは手が回りませんので。



田中

先ほど、産廃業者と取引するというお話がありましたが、産業廃棄物として出るものはどのようなものでしょうか。



加藤



久保木

工場のゴミとか、事務所から出る事業系のゴミです。事務所からは分別しリサイクルできるゴミ、燃やすゴミを分けて、リサイクルするゴミは産廃業者に渡して再生してもらうことにしています。

マニフェスト(産業廃棄物管理票)はどうされていますか



加藤



久保木

電子マニフェストです。紙はどうしても保管して漏れたりすることもありますので。



中西

じかに契約する時は電子マニフェストで、施工会社を入れるときは紙で契約しています。



久保木

撤去され戻ってきた製作物を廃棄することもあります。月に1回4tトラックがきて出しています。



中西

弊社が取引する協力会社とは必ず委託契約を結んでいて、その会社が独自に倉庫を持っていてそこから適宜処理する。取扱量によって違いですが、多いところは2、3日に1回処理をする、或いは1か月くらい貯めて処理という会社もあります。

マニフェストも大変ですね。このマニフェストはどれに対応しているのかとなるわけですね。



加藤



中西

時期が来ると必ずマニフェストという話になります。こちらでも、詳細をきちんと管理して対応しています。



久保木

ISO14001の更新審査は2年に1回ですが、定期審査は毎年ありますので、毎年なにかしらの対応をしています。習慣にしていれば毎日のことになりますので。

本日はお忙しいところをありがとうございました。



西井

公益社団法人 日本鉄道広告協会

〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南1丁目5番5号

JR恵比寿ビル10階

このホームページに掲載の、記事・写真・図表などの無断転載を禁止します。
すべての著作権は、日本鉄道広告協会に帰属します。